

令和7年度秋田県社会福祉審議会地域福祉支援計画専門分科会
議事要旨

1 開催日時

令和7年9月2日（火）13:30～15:30

2 開催場所

秋田地方総合庁舎6階 総603会議室

3 出席委員

6名中5名出席

4 議事

(1) 第3期秋田県地域福祉支援計画の進捗状況について

今年度の施策の実施状況を説明し、委員から進捗状況及び今後の取組等について意見が出された。

●資料全体について

○今回の資料について、作成して終わるのではなく、県民に知らせていくことが必要ではないか。

●資料1 第3期秋田県地域福祉支援計画の数値目標と進捗管理

○目標指標に見えるように、人口減少に伴って地域力が下がってきている。これまで地域を支える活動を行ってきた人が高齢化などの理由で減ってきているほか、生活課題が複雑多様化してきており従来の相談支援機関の枠から外れてしまう状況が起きていることが背景にあると考えられる。最前線の相談支援機関等の強化が必要になるが、それだけでは不足する部分があり、横断的な包括的支援体制の構築が求められている。今後も人手や予算が不足していく状況だからこそ、専門職が中心となって包括的な支援体制を構築していくことが必要である。

●資料2 第3期秋田県地域福祉支援計画施策の実施状況等

【Ⅰ 地域福祉を推進する体制づくり】

○ウェブサイトやLINEを活用していくことを考える中では、秋田県の公式LINEの登録者数が県人口に対して少ない。普及に向けた対応策を考える必要があるのではないかと。

【Ⅱ ともに支え合う地域づくり】

○地域包括支援センターが実施する「認知症サポーター養成講座」で認知症の基本的な理解・知識を得た後、その知識を活用していくためには「認知症ステップアップ講座」が重要になってくる。認知症サポーターとして活動する上で必須ではないため、全ての地域包括支援センターで行っているものではないが、地域の見守り体制を確立するためには必要なものである。

【Ⅲ 地域福祉を支える人づくり】

○災害ボランティアコーディネーターが防災士の資格を取得する等、専門性を高めていきたい。

【IV 福祉サービスを適切に利用できる基盤づくり】

- あきた芸術劇場ミルハスの障害者用駐車場について、数が少なく予約ができないため、悪天候時には車椅子利用者の移動が困難である。補助者が離れなければいけない間の一時的な見守り等の臨機応変な対応を考えなければ、障害者の社会参画に大きな障害になってしまう。担当課が異なる部分もあるが、行政においては理解を深めて横のつながりを高めていただきたい。

(2) 孤独・孤立対策について

孤独・孤立対策の取組について説明し、今後の取組等に対して委員から意見が出された。

- ひきこもり等の問題を抱える人々に対して、警察や救急隊が対応した際に、行政と情報共有する仕組み等を考える必要があるのではないか。
- 実際に孤独・孤立を抱えている人々が相談をすることはあまりない。プラットフォームを円滑に運用していく中では、そのような声を出さない人々の早期発見にどのように向き合っていくかが重要である。
- 災害支援では、不足している物資等を発信することで集まってくるような情報交換の仕方が可能だが、孤独・孤立対策については、具体的な事例を集め事例検討していくことが重要になっていくものとする。
- 学校に行けない子どもが児童会館に来館しているのを見た地域の人が通報し、その子どもが来なくなってしまった事例があった。成功事例と失敗事例の双方から学ぶことがある。